

## アラブ諸国の医療と薬草療法

日本医療経営学会理事長 廣瀬輝夫



## はじめに

ユナニアラブ医学はアールペーダおよび中医とともに世界三大代替医療であり、その由来と現状を視察するため、トルコ、ヨルダンとチュニジアの近代および代替医療と、それを医療保険で認可しているトスカナ地方の薬草博物館を訪れた。

西洋医療はギリシャで起こり、ローマを経てメソポタミア、エジプト、インド医学を吸収してユナニ医学として始まった。

## アラブ3国の近代医療の現状

アラブ諸国のなかで政情が安定しているトルコ、ヨルダン、チュニジアの近代医療の現状では、トルコが最も発達しており、国民1人当たりの医療費、医師数および看護師数はわが国の半分に近く、ヨルダンの医療費はわが国の7分の1であり、医師数、薬剤師数はほぼ同数で看護師数は半分である。

わが国と比較すると、チュニジアの医療費は10分の1で医師数は半分、看護師は4分の1である。しかし、いずれも病院、病床数はわが国の10分の1にすぎない。人口高齢化率は6%前後である。平均入院日数は5日前後であるが、外来治療を主としている。乳児死亡率はわが国の3.0に比較して10倍に近い。先端医療は私的病院のみで施行され、トルコ、ヨルダンでは臓器移植、心臓外科も行われ成績もよく、歯科、口腔外科は近隣諸国からの来診も多い。住民の大半は公的病院で治療を受けているが、その医療程度は低い。

ヨルダンの首都アンマン市内にある私的病院の多くは特殊専門病院で、その1つのKhaldi総合病院は150床の小病院であるがMRI、CTおよびICUなどの近代施設を備え、一般外

科内科とともに1日20例の人工透析、および年間20例の腎臓移植が行われていた。その他、眼科、心臓病専門病院もあり、Farh病院は乳房形成術のみを行うなど特色があるが、公的病院は一般総合病院で設備が悪かった。

医療保険は住民の30%は私的保険、20%は公的保険があるが、半数は私的支払いのみで、平均年収50万円の住民には、私的病院の一般初診料は350円、専門医初診料は6,000円なので割高である。

医師の平均収入は年間300万円にすぎないため、心臓病専門病院を創始した大学教授も辞任し急にドイツへ転任したため、面会の約束が果たせなかった。

トルコのイスタンブール市内の私的病院は20%にすぎないが、その1つのYeditep市立大学の付属病院Alkhalidi総合病院は元イスタンブール市長の創設した病院で、先端医療が行われており、耳鼻咽喉科、歯科、口腔外科が優れ、声帯のレーザー整形術で音声の矯正を行うため近隣国からも歌手、俳優らが訪れていた。また歯科医、歯科技工士の実地教育のために50人が一斉に実習している教室と最新診断器を備えた耳鼻咽喉科、眼科の外来診療室があり、VIPスイート病室は高級ホテル並みで付き添いのための別室も付属している。

大学病院の本館は400床で、手術室、心臓血管診断治療設備、CCU、ICUも米国の一流病院に匹敵するので、CABG手術は年間300例、PCIは700例で成績もよい。

また近い将来、ガン手術センターとガン化学療法センターを設立するための会議を、アジア地区紅海近辺にある大学付属の広大なキャンパスで行うとのことで学長に招待され

参加した。そのあとトルコ風羊の焼肉パーティーに主賓として招かれ、紅海の風に接して来た。

医学教育はいずれの国でも盛んで、医学校の年間卒業数は人口に比例すれば先進国と同等で、ことにチュニジアでは義務教育からの大学教育はすべて国家負担で無料であり、若者の80%は大学卒である(表1)。

## アラブ3国の薬草医療

公的病院では十分な近代的医療が受けられず待機期間も長いので、大半の一般市民はAttarと呼ばれる薬草処方士から店頭で診断を受け、生薬および自然生薬の処方をしてもらっている。重症者以外は医師に治療されていないが、平均寿命は71歳前後で発展途上国のうちでは上位を占めている。ことにトルコでは、私的病院が少なく公的病院が多いので、イスタンブールのバザーにある薬草市場はにぎわっている(写真1)。

ヨルダンのアンマン市の中心街には十数軒の薬局が立ち並び生薬の処方が行われ、自然薬製剤の販売も盛んである(写真2,3)。近郊には大規模な製薬会社が数社あり、自然薬および薬草の製剤も近代薬とともに盛んで隣国にも輸出しており、自然薬の種類は諸国の薬草および化学製品も含めて広範である(表2)。

チュニジアの私的な近代的病院では北アフリカやアラブ諸国からの来診も多く、代替医療や薬草治療は比較的少ない。

## ユナニ医学の歴史と現状

アラブ医学は7世紀前後から発達し、主として祈祷と薬草、瀉血、蛭吸血法および自然食、絶食の食事療法とマッサージ、蒸気風呂、温冷浴の物理療法から成り立っていたが、現在ではトルコ風蒸し風呂と薬草のみが残存している。

アラブ民族の大半はGini女神と後

生の存在を信じ、重病に罹患するとShamanの祈祷を受けるという。

また田園地区では蛭吸血法、解毒療法としてなつめ、ひまし油、雌らぐだの乳および尿などの飲用、蜂蜜による切り傷の消毒や絶食療法がいまだに行われている。

ユナニ医学は現在代替医療として使用できるものは薬草療法と物理療法くらいしかない。

ただし、イエーメン、イラン、イラクにはメソポタミア時代の薬草や医療法が残されていると言われる。

## アラブ3国の代替医療

ユナニ医学は薬草療法以外あまり学ぶことはなく、代替医療士は自然療法士、薬草処方士、漢方医、鍼灸師のほか、近代的なカイロプラクター、バイオフィーディングなどが行われ、ことに日本の漢方および鍼は高く評価されている。イスタンブールには相当数の診療所があり、自然療法は博士号を持つ市立自然食博物館の館長が、代謝障害症候群に対する自然食や薬草および絶食療法の講義をしてくれた。

代替医療士の1人はインドへ留学しアールペーダを学んだ僧侶で、市内に大規模な診療所を持ち祈祷と薬草療法、鍼灸療法により治療をしているが、一般市民の信用も厚く盛況であった。

ヨルダンのKahaldi大学付属病院でも、最近日本へ留学した漢方医を雇用し代替医療を施行していた。

## フローレンス近郊の薬草博物館

薬草の歴史を知るためにイタリアのSansepolcro市にある世界唯一のABOCA博物館で古代からの薬草、製剤器具、薬剤容器、薬草およびその古文書、さらに中世期の薬局と鍵付きの麻薬貯蔵室などを1日ばかりで見学した。そこに貯蔵されている薬草発生史のコピーをもらい受けたが、スピルナー、クロレラなどの海藻は健康増進およびガン代替治療薬などとして現在使われているが、60億年前に既に発生しており、銀杏は記憶回復剤として5,000年前から使用されているが2億年前に初期の樹木

次ページへ続く

〈表1〉日本およびアラブ3国の医療比較(2004年)

	日本	チュニジア	ヨルダン	トルコ
人口	1億2,700万	1,003万	535万	7,300万
面積	37万km <sup>2</sup>	16万km <sup>2</sup>	9.3万km <sup>2</sup>	78万km <sup>2</sup>
国民総生産額	4.2兆米ドル	835億米ドル	320億米ドル	2,010億米ドル
1人当たり年収	3万2,000米ドル	8,300米ドル	4,700米ドル	8,100米ドル
国民医療費	2,800億米ドル(7.8%)	30億米ドル(3%)	18億米ドル(4%)	100億米ドル(4%)
1人当たり医療費	2,204米ドル	299米ドル	336米ドル	1,369米ドル
医科大学	80校	6校	2校	56校
医師数	28万(201)	9,800(100)	1万2,000(224)	9万9,000(126)
歯科医師数	8万(60)	1,834(20)	6,500(73)	2万2,000(30)
薬剤師数	16万(129)	2,054(40)	9,800(164)	2万4,000(32)
看護師数	90万(948)	2万(200)	2万1,000(325)	39万(510)
病院数	9,000	169	63	1,217
病床数	150万(1,181)	1万8,000(180)	9,820(180)	12万(164)
公的	40%	50%	50%	80%
入院日数	29日	5.2日	3.3日	5.3日
平均寿命	81.25歳	71.12歳	71.50歳	72.62歳
老齢化率	21.0%	6.7%	3.9%	6.3%
出生率(特殊出生率)	9.37(1.25)	15.52(1.75)	21.25(2.50)	16.52(1.92)
乳児死亡率	3.0	22.04	29.0	39.69

( ) = 人口10万人に対して

〈表2〉ヨルダンのDelass製薬、自然薬

薬品名		1回量	適用
CRANBERRY	ツルコケモモ	400mg	尿路消毒剤
REDGRAPE SEED	赤ブドウの種	50mg	抗酸化剤
GINKGO BILOBA	銀杏の葉	120mg	記憶強化血行改善
ADANSONIA	錦葵	300mg	ビタミン鉱物質補助薬、解熱剤
CITRUS PECTIN	柑橘膠素	5mg	脂質降下剤
GREWIA TENAX	グレヴィア	500mg	血液再生剤
ANISE PASLY LEMON	紫蘇 パセリ レモン		口腔清涼剤
CARAWAY	ヒメウイキョウ	200mg	抗膨満剤、消化剤
FENNEL	ウイキョウ	10mg	抗膨満剤、消化剤
GARCINIA	副木雌黄	500mg	抗肥満剤
CHITOSAN	硫化キトサン	250mg	脂質、脂肪質低下剤
MILK THISTLE	乳アザミ	175mg	肝臓底護剤
MYRRH	没薬(ゴム科)		口腔清涼剤
BOSWELLAA	ピンロウ樹	200mg	潰瘍性大腸炎
GINSENG	朝鮮人参	100mg	身体適応、健康増進
ECHINACEA	ルードベキヤ(菊科)	100mg	免疫亢進
GLUCOSAMINE	硫化多糖類	500mg	骨性関節炎
DEVIL'S CLAW	悪魔の爪	200mg	抗炎症、食欲増進
St. JOHN'S WORT	オトギリ草	250mg	抗うつ剤
IVY LEAF	キヅタの葉	80mg	肺抗炎症剤
EUCALYPTUS	ユーカリ	100mg	咽喉消炎剤
BLACK COHOSH	黒升麻	200mg	更年期障害
PUMPKIN SEED	カボチャの種	170mg	良性前立腺肥大
SAW PALMETTO	小椰子の葉	500mg	良性前立腺肥大

〈写真1〉イスタンブールのバザー内の生薬売り場



〈写真2〉ヨルダン・アンマン中心街の薬局



〈写真3〉アンマン中心街の薬局内部

前ページから続く

として出現した柳の葉、カモミール、緑茶などの精神沈静剤は人類誕生後栽培されたものであるという。

中世期には僧院で栽培された薬草の保存は、天井から名札を貼付して下げ乾燥し蒸留装置で薬物としてキリスト教信者達の治療に使用した。

1615年にニュルンベルグでBeslerにより発行された『THE GARDEN AT EICHSTATT』は最初の全巻薬草の絵図のある希少本が初めて英国で英訳されたものを購入したが、当時の薬草がすべて収録されている(表3)。

夕方はフローレンス市内の香料博

物館を訪ねたが、そこには中世期から最近までの香料が収集されていた。個人の好みにより調合してくれ、また世界的に有名な香水シャネル、ミツコなども調合されていた。

### トスカーナ地方の医療

トスカーナ地方はフローレンスも含め多数の代替医療士が開業しており、漢方、鍼治療、指圧療法、カイロプラクティック、バイオフィーディングおよび薬草治療の診療所の実地見学をした後、地区厚生省で厚生大臣をはじめ医科大学学長、代替医療士も交えた総合保健会議に招かれ、フローレンス、ピサ市などがあ

〈表3〉薬草発生史(イタリア・ABOCA博物館所蔵)

時代	年代	薬用植物	動物および人類
原生期	30億	藍藻 (Spirochela) 海藻 (Chlorella)	
古生期	5億7,000万	寒天 スギ海苔	海綿, 三葉虫, クラゲ (無脊椎動物)
	5億500万	褐藻(ヒバマタ), 紅藻(サンゴモ)	カブトウズ類
	4億3,000万	麹(Yeast), 赤カビ(Penicillium)	(無脊椎動物)
	4億800万	アイスランド苔	無尾類, 魚類, イモリ
	4億	ヒカゲノコズラ	
	3億6,000万	トクサ類(スギナ)	
	3億9,000万	蘇鉄	爬虫類(海中, 地上, 空中)
中生期	2億4,800万	雄羊歯 銀杏	ダイナソア
	2億1,300万	松 杉 イチイ イチイモドキ	鳥類
	1億4,400万	麻黄(Ephedra)	第一代哺乳類
共生期	1億	ナツメ 楠 肉桂(Cinnamon) 月桂樹 ハシバミ(Hazel) 紫蘇 麻 イラクサ(Nettle)	草食動物, 肉食動物 哺乳類, 霊長類 狐, 猿類
	6,500万	白樺 大黃(Rhubarb) 菩提樹 茶 巴草 葵	エジプト猿人
	5,500万	ココア 柳 薄紅立葵(Marshmallow)	ケンヤ猿人
	3,800万	甘草(Liquorice) トケイソウ	ラマ猿人
	2,500万	キンバイカ サンザシ タマリンド 大豆 エヒラハギ	
	5,000万	橡の木(Horse Chestnut) 昆麻 ウイキョウ ヤドリギ(Mistletoe) クロウメモドキ ハンノキ	オーストラリア猿人 第1世代類人
新生期	250万	ハシリドコロ(Belladonna) ダツラ葉 ハッカ 桂皮(Lavender) ヨモギ(Sage) 狐の手袋(Digitalis) キナ コーヒー カノコソウ カンザシ(Camomile) 菊 生姜 ショーヅク 阿仙草	古代人 石器時代
	3万5,000万	竜の木(Dragon Tree) 菖蒲	現代人 薬草療法
	1万		青銅時代

るイタリア中部のトスカーナ地方では統合医療も医療保険で保証を受け、代替医療が奨励されており、それが発達しているメキシコとも協力している旨を知らされ、日本の代替医療との交流を希望された。

### むすび

今回の訪問では、アラブ古代医療でもあるメソポタミアの医療は政情

不安のため見学できなかったが、西洋における薬物治療がインド、中国、米大陸の薬草からの影響があるか、またいかに中世期からの僧院および民族的薬草が保存されているかが実感され、三大代替医療と言われたユナニ医学はほとんど廃れていることも了解できた。

近代医療は発展途上国のなかでは先進国に近付きつつある。